

介護老人保健施設 光風

20年の歩み



開設の趣意

「これからの高齢者のケアは一家族の力だけではできない。
同様に一病院の力だけでできるものでもない。
したがって、医療機関・行政・地域の人々が協力して
これからの問題に取り組めるシステムをオープンなかたちで創る。
そのために、4 医療機関が共同して建設計画を練り、共同運営していく」
(開設趣意書から)

平成27年9月25日

光風の沿革

平成6年 準備室設置、起工
平成7年9月25日 開所 独立型老人保健施設
入所80床（短期入所含む）、通所リハ20名
平成8年10月1日 郷ノ浦町在宅介護支援センター 受託
平成9年4月1日 施設長 江田邦夫医師から武原光志理学療法士へ



平成12年2月1日 認知症対応型共同生活介護 グループホームみのり（定員9名）

自宅復帰・在宅支援を旗印に光風を運営する中で、認知症を病む人々のケアに直面。自宅で生活することが困難な認知症の人々が安寧に生活できる場としてグループホームを開設



平成12年10月 長崎県・長崎県歯科医師会より委託事業「口腔ケア」
壱岐歯科医師会にご協力いただきました。

平成12年4月1日 介護保険制度開始
居宅介護支援事業所 開所



平成12年11月22日 いき・さくらんぼ保育園 開園

職員の要望に応じて事業所内託児所を開設。3人目、4人目の子どもも誕生！
出生率アップ、子育て支援にも貢献。

平成13年3月31日 在宅介護支援センター委託返上

平成14年1月1日 光風・ふくしまクリニック開院（無床）

病院から光風を経由して、自宅に帰られる人々が年毎に増えゆく中で、自宅退所された人々を継続して支援するために光風の中にクリニックを開設。三島にも往診



平成14年4月1日 長崎県より「地域リハビリテーション広域支援センター」受託

平成14年6月1日 独立型老健から診療所併設型老健へ

平成 15 年 9 月 1 日 訪問介護事業所 ホームヘルパーステーションやさしい手開所
平成 16 年 5 月 1 日 通所介護事業所 デイサービスセンター光風開所（定員 20 名）
平成 17 年 11 月 施設長 福島洋医師へバトンタッチ

高齢夫婦世帯・独居世帯が増える中で、自宅で介護されている家族の負担を軽減するために訪問介護を立ち上げる。また、第 2 の通所事業所も開設。認知症の方を中心として、島内初めて、日曜も開所しています。



平成 20 年 3 月 1 日 通所介護事業所 パワーリハビリテーションセンター光風開所（定員 20 名）



介護予防を主目的とした 3 番目の通所事業所を開設。通所利用者のニーズの多様性をふまえて、PT・OT・ST によるリハビリが必要な人は通所リハ、予防中心の人はパワーリハ、重度な障害がありゆっくりしたペースで生活される人はデイサービスセンター。それぞれの特性を活かす取り組みを始める。

平成 23 年 2 月 1 日 夜間対応型訪問介護事業所 ホームヘルパーステーションやさしい手開所

平成 23 年 9 月 24 時間訪問介護事業 受託

24 時間 365 日、いつでも対応できるサービスを提供することが大切ということで、モデル事業を受託。夜間対応型から 24 時間対応型の訪問介護を連続して実施

平成 26 年 10 月 パワーリハビリテーションセンター光風
壱岐市二次予防事業対象者指導 受託

介護予防事業に本格的に取り組めば、要支援・要介護認定者とサービスを減らすことができる。そう考えて壱岐市二次予防事業を受託。

21 世紀の医療と福祉を考える会

島民とともに、これからの医療・介護・リハビリテーションの在り方を模索し議論を深める場として「21 世紀の医療と福祉を考えるフォーラム」を平成 8 年から始める。

第 1 回 平成 8 年 8 月 2 日

「これからの離島医療（救急搬送体制など）・福祉を高齢化・少子化・過疎化が進む中、島民の健康・障害児者との共生、老後の保証など、安心して暮らせる壱岐を、今からどのように創っていくか」

| | | |
|---------|--------|------------------|
| 国政の立場から | 虎島 和男様 | （衆議院議員） |
| 県政の立場から | 平田賢次郎様 | （県議会議員） |
| 医療の立場から | 朝永 昭光様 | （大村医師会理事・朝長医院院長） |
| 福祉の立場から | 中村 安様 | （壱岐福祉事務所地域福祉課長） |

第 2 回 平成 9 年 11 月 27 日

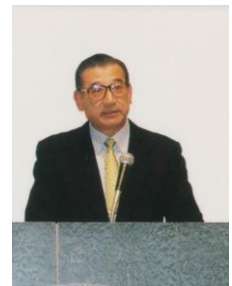
「21 世紀の壱岐の救急医療体制整備充実をはかるために」

| | | |
|-------------|-------|----------|
| 行政の立場から | 大皿川恵様 | 芦辺町長 |
| 公的医療機関の立場から | 吉村行生様 | 壱岐公立病院院長 |
| 地元医師会の立場から | 光武新人 | |

第 3 回 平成 10 年 10 月 24 日

「介護保険で老後は支えられるか」

| | | |
|------|-------------|-------|
| 講師 | 毎日新聞社論説副委員長 | 宮武剛先生 |
| パネラー | 長崎県介護保険準備室長 | 渥美輝夫様 |
| | 壱岐郡社協事務局長 | 長嶋立身様 |
| | 壱岐医師会 | 光武新人 |



来賓挨拶：品川晃一郎先生

第 4 回 平成 11 年 6 月 25 日

「地域で支えあう介護保険をめざして」

| | |
|------|-----------|
| パネラー | 4 町保険者 |
| | 介護サービス事業者 |
| | ケアアマネジャー |
| | 地域団体 |
| | 介護経験者 |
| | 計 16 名 |



故 大蔵元先生

第5回 平成12年9月5日

「みんなで創りあげる介護保険、その問題点を探る」

パネラー 地域住民、行政担当者、社会福祉協議会 計10名



第6回 平成13年9月28日

「離島・壱岐の救急医療」

講師 済生会福岡総合病院院長 岡留健一郎先生

パネラー 活き壱岐住民ネットワーク代表 東 幸博様

前芦辺町商工会青年部長 長田浩義様



第7回 平成14年11月28日

「離島の救急医療～壱岐と対馬の連携を探る」

シンポジスト 国立病院九州医療センター副院長 吉田晃治先生

国立病院九州医療センター救急部医長 小林良三先生

対馬いづはら病院長 森 正孝先生

中対馬病院副院長 糸瀬 薫先生



第8回 平成15年9月30日

「3年が経過した介護保険の現状と課題

～地域包括ケアシステムと保険・医療・福祉の役割」

講師 公立みつぎ総合病院管理者 山口昇様



平成 27 年度在宅復帰の状況

| 27 年度 | | 4 月 | 5 月 | 6 月 | 7 月 | 8 月 | |
|--------------|--------|-----|-------|-------|-------|-------|-------|
| 退所者数 | | ① | 18 | 20 | 18 | 17 | 17 |
| ①のうち 退所先 | 光武病院 | | 2 | 6 | 3 | 5 | 4 |
| | 壱岐病院 | | 0 | 1 | 1 | 1 | 2 |
| | 特養 | | 3 | 5 | 0 | 0 | 0 |
| | 死亡 | | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 在宅 | ② | 13 | 8 | 14 | 11 | 11 |
| ②のうち 入所期間 | 1 月未満 | | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 |
| | 1 月以上 | ③ | 13 | 8 | 14 | 10 | 10 |
| ③のうち 在宅期間 | 1 週間以内 | | 1 | 0 | 1 | 0 | 0 |
| | 1 月未満 | | 0 | 0 | 1 | 1 | 0 |
| | 1 月以上 | ④ | 12 | 8 | 12 | 9 | 10 |
| 在宅復帰率 ④/① | | | 66.7% | 40.0% | 66.7% | 52.9% | 58.8% |

平成 27 年現在

| | |
|--------------------------|---------|
| 介護老人保健施設 入所 | 定員 80 名 |
| 介護老人保健施設 短期入所療養介護 | |
| 介護老人保健施設 通所リハビリテーション | 定員 80 名 |
| 光風・ふくしまクリニック | |
| グループホームみのり（認知症対応型共同生活介護） | 定員 9 名 |
| デイサービスセンター光風（通所介護） | 定員 25 名 |
| いき・さくらんぼ保育所 | |
| パワーリハビリテーションセンター光風（通所介護） | 定員 45 名 |

総職員数 130 名



《理念》

自分が受けたいケアを行い、自分がされたら嫌なケアはしません。

高齢者の人権人格を尊重し「家に帰りたい」思いを叶えます。

自立を支援し在宅復帰後もご家族と共に亡くなるまで支え続けます。

地域住民に頼られる施設づくりをめざします。

光風のある風景

ここは混沌の館。パン屋が居る。漁師が居る。百姓が居る。銀行員が居る。郵便屋さんが居る。医者がある。婦長が居る。保健婦が居る。

大工が居る。教師が居る。そして床屋も居る。

ここは混沌の館

十八歳が居る。二十歳が居る。三十路が居る。還暦が居る。

米寿が居る。そして九十九歳も居る。

ここは混沌の館

健康な人が居る。杖歩行の人が居る。歩行器の人が居る。

手押し車の人が居る。車いすの人が居る。そして寝たきりの人が居る。

ここは混沌の館

元気な人が居る。病んだ人が居る。寂しさが支配している人が居る。

毎日が楽しい人が居る。苦しみに耐え頑張っている人が居る。

笑っている人が居る。そして、たそがれさんも居る。

ここは混沌の館

時間が足りない人が居る。時間がゆるやかに過ぎていく人が居る。

時間が止まっている人が居る。そして時間が過去に戻っている人も居る。

ここは混沌の館

社会が広がった人が居る。社会を閉ざしている人が居る。

社会が閉ざされている人が居る。そして社会がなくなった人も居る。

ここは社会の縮図ではなく、社会を圧縮した世界。

ここは人生のたそがれではなく人生の出発。

ここは年を重ねることを恐れるところではなく楽しむところ。

ここは年をとったことを悔やむところではなく満足するところ

老人保健施設光風は調和を保った混沌の館なのです。

浦川明浩

